

令和2年度開講科目 講義シラバス

作業療法学科  
昼間コース2年生

学校法人 巨樹の会

令和2年度 実施予定 カリキュラム

学校法人リハビリ 巨樹の会 リハビリテーション学院・学校【作業療法学科 昼間コース】

分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		時間数	単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	人文科学	心理学	30						30	2	
			基礎教養	30						30	2	
			対人関係演習Ⅰ	30						30	2	
			対人関係演習Ⅱ		30					30	2	
		自然科学	統計学					30			30	2
			情報処理	30							30	2
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30						30	2	
			解剖学Ⅱ		30					30	2	
		生理学	生理学Ⅰ	30						30	2	
			生理学Ⅱ		30					30	2	
		運動学	運動機能学Ⅰ	30						30	2	
			運動機能学Ⅱ		30					30	2	
			運動機能学演習Ⅰ	30						30	2	
			運動機能学演習Ⅱ		30					30	2	
		人間発達学	人間発達学			30				30	2	
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	医学概論	30						30	2
				病理学概論		30					30	2
			臨床医学各論	整形外科			30				30	2
				内科学			30				30	2
				神経内科学			30				30	2
	臨床心理学				30					30	2	
	精神医学		30					30	2			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと作業療法	30					30	2		
	専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学	基礎作業学Ⅰ	30						30	2
				基礎作業学Ⅱ		60					60	2
				基礎作業学Ⅲ			30				30	1
生活機能演習							30			30	1	
作業療法評価学		作業療法評価学	評価学演習Ⅰ	60						60	2	
			評価学演習Ⅱ		60					60	2	
			評価学演習Ⅲ			30				30	1	
			評価学演習Ⅳ				30			30	1	
作業療法治療学		日常生活活動学	日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ		30				30	1	
				日常生活活動学演習Ⅱ			30			30	1	
		義肢装具学	義肢装具学	義肢学		30				30	1	
				装具学			30			30	1	
		疾患別作業療法学	疾患別作業療法学	中枢神経系障害の作業療法学Ⅰ			60				60	2
				中枢神経系障害の作業療法学Ⅱ				30			30	1
				運動器系障害の作業療法学					60		60	2
				発達障害の作業療法学			30				30	1
				内部系障害の作業療法学Ⅰ				30			30	1
				内部系障害の作業療法学Ⅱ					30		30	1
				精神障害の作業療法学Ⅰ				60			60	2
				精神障害の作業療法学Ⅱ					60		60	2
	高次脳機能障害の作業療法学							30		30	1	
	作業療法学技術演習Ⅰ						30			30	1	
	作業療法学技術演習Ⅱ					60		60	2			
	地域作業療法学	地域作業療法学	作業療法学総合学習						60	60	2	
生活環境学							30		30	2		
						30		30	2			
実習	臨床実習	臨床実習	臨床実習					810	810	18		
*基礎分野:講義15~30時間1単位 *専門基礎分野:講義・演習15~30時間1単位 *専門分野:同上 *臨床実習:45時間1単位	基礎分野			150	30	0	30	0	0	210	14	
	専門基礎分野			180	210	120	0	0	0	510	34	
	専門分野			90	180	330	390	0	60	1050	38	
	実習			0	0	0	0	810	0	810	18	
	前期・後期小計			420	420	450	420	810	60	2580	104	
	前後期合計			840		870		870				

専任教員略歴一覧表

担当科目	担当教員指名	臨床経験内容
リハビリテーションと作業療法Ⅰ	吉田 和弘	身体障害領域病院実務経験
		高齢者施設・在宅領域実務経験
精神障害の作業療法Ⅰ	二階堂 晴江	精神科領域病院実務経験
基礎作業学Ⅱ		高齢者施設・在宅領域実務経験
作業療法学技術演習Ⅱ		精神保健福祉士兼務実務経験
精神医学		
対人関係演習Ⅰ		
リハビリテーションと作業療法Ⅱ		
基礎作業学Ⅰ	太田 研吾	精神障害領域病院実務経験
基礎作業学Ⅲ		精神障害領域訪問支援実務経験
精神障害の作業療法Ⅰ		高齢期施設実務経験
精神障害の作業療法Ⅱ		
地域作業療法学演習		
作業療法学技術演習Ⅱ		
高次脳機能障害の作業療法学	松崎 正見	身体障害領域病院実務経験
中枢神経系障害の作業療法学Ⅱ		
日常生活活動学演習Ⅱ		
内部系障害の作業療法学Ⅰ		
内部系障害の作業療法学Ⅱ		
作業療法学総合学習		
臨床実習		
運動学演習Ⅰ	桑原 健志	身体障害領域病院実務経験
運動学演習Ⅱ		高齢者施設・在宅領域実務経験
中枢神経系障害の作業療法学Ⅰ		
評価学演習Ⅳ		
生活環境学		
作業療法学技術演習Ⅱ		
日常生活活動学演習Ⅰ	堀川 和馬	身体障害領域病院実務経験
装具学		高齢者施設・在宅領域実務経験
作業療法学技術演習Ⅰ		
運動系障害の作業療法学		
義肢学		
対人関係演習Ⅱ		
臨床実習Ⅰ		
基礎評価学演習Ⅰ	沖 雅人	身体障害領域病院実務経験
基礎評価学演習Ⅱ		
運動器系障害の作業療法学		
作業療法学技術演習Ⅰ		
臨床評価学演習Ⅰ		
臨床評価学演習Ⅱ		
運動器系障害作業療法学		
生活機能演習		
運動学Ⅰ	近藤 昭彦	身体障害領域病院実務経験
運動学Ⅱ		
リハビリテーション基礎医学Ⅰ		
基礎作業学Ⅱ		
評価学演習Ⅲ		
作業療法学技術演習Ⅱ		

# I . 基礎分野

講義科目		統計学				
担当講師		藤本 一美			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり	単位数	2
教育目標 基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。						
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)				
1	オリエンテーション	①臨床研究のデザインと研究の信頼性を理解する。 ②統計の4つの尺度とその意味を理解する。				
2	偏差値	①偏差値とは何か ②標準偏差と編阿智の関係 ③正規分布				
3	有意水準と仮説検定	①有意水準と仮説検定 ②片側検定と両側検定				
4	割合の検定	①二項分布の正規近似 ②p値				
5	t検定	①母集団と標本、平均と分散 ②標準偏差と標準誤差 ③t値とt分布				
6	カイ2乗検定	①観測度数と期待度数 ②カイ2乗検定				
7	推定の考え方	①検定と推定の違い ②中心局限定理				
8	割合と平均値の区間推定	①信頼区間				
9	オッズ比とリスク比	①リスク比の信頼区間 ②オッズ比の信頼区間				
10	演習①	練習問題				
11	演習①	練習問題				
12	相関と回帰	①相関、回帰とは何か ②回帰直線の求め方				
13	感度と特異度	①検定の信頼性 ② $\alpha$ エラーと $\beta$ エラー ③感度と特異度				
14	統計の限界と誤用	①臨床的に重要とは何か ②定量的な判断				
15	まとめ	理解度にあわせて補足を行う。				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	医療統計わかりません		五十嵐中, 佐條麻里著	東京図書	2015年	
参考図書等						
授業方法	統計学の基本的な内容の講義、および統計処理の演習を行う。		成績評価方法	定期試験にて評価。		
履修上の注意	統計学は根拠に基づいた証明を実践するため必要不可欠で、科学的根拠に基づくリハビリテーションの基礎となる学問であり興味をもって臨むこと。 $\sqrt{\quad}$ のついた計算機を用意すること。					

## II. 專門基礎分野

講義科目		人間発達学			
担当講師	押条 賢貴		授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数	2	
教育目標		①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。			
No.	講義計画	行動目標 ( 学 習 目 標 )			
1	人間発達総論	①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③運動発達の理論を理解する。			
2	発達検査	①人間発達の見方を理解する。 ②発達検査の進め方の概要を理解する。 ③発達障害を呈する主な疾患について検査法選択・実施の概要を理解する。			
3	姿勢反射・反応	①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現・消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。			
4	胎児期の発達	①胎児の発達過程を理解する。 ②胎児期に出現する反射の確認を行う。			
5	新生児期の発達	①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。			
6	乳幼児期の発達	①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。			
7	幼児期の発達	①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。			
8	上肢機能の発達	①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。			
9	ADLの発達1(食事・排泄・更衣)	①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。			
10	ADLの発達2(遊び)	①遊びの発達を理解する。			
11	感覚・知覚・認知の発達	①感覚・知覚・認知の発達を理解する。			
12	言語・社会性の発達	①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。			
13	学童期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。			
14	青年期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。			
15	成人・老年期の発達	①青年期の特徴を理解する。 ②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。			
教科書	書 籍 名		著 者	出 版 社	発 行 年
	イラストでわかる人間発達学		上杉 雅之 監修	医歯薬出版株式会社	2015年
参考図書等	リハビリテーションのための人間発達学		大城 昌平 編	メディカルプレス	2015年
授業方法	講義および演習方式で授業を行う。		成績評価方法	定期試験と授業への取組を総合的に評価。	
履修上の注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評価学・治療学の基礎となる科目である。				

講義科目		整形外科学				
担当講師	藤本 一美				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり	単位数	2
教育目標 リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。						
講義計画(講義内容を含む)						
1	整形外科基礎知識	①正常な骨の発生と成長及び基本構造を理解する。 ②骨の修復と再生、骨の加齢変化について理解する。 ③関節・骨格筋・神経系の基本構造を理解する。				
2	整形外科的治療法	①診療の基本と検査の概要を知る。 ②保存療法の種類・目的・方法の概要を知る。 ③代表的な基本的手術法を知る。				
3	外傷総論	①捻挫と脱臼の違いを理解する。 ②骨折の分類と治癒過程を理解する。 ③骨折の症状・合併症及び治療の原則を理解する。				
4	骨折と脱臼①上肢 (小児骨折含む)	①受傷転機、好発部位、年齢、転移、合併症、治療を理解する。				
5	骨折と脱臼②下肢 (小児骨折含む)	①受傷転機、好発部位、年齢、転移、合併症、治療を理解する。				
6	末梢神経損傷	①末梢神経損傷の分類及び特徴、病態像を理解する。 ②末梢神経損傷の診断と治療を理解する。				
7	靭帯損傷	①代表的な靭帯損傷の症状・診断・治療を理解する。				
8	脊椎疾患	①頸椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。 ②胸腰椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。				
9	脊髄損傷	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。				
10	脊髄損傷	①脊髄損傷の症状を理解する。 ②脊髄損傷の治療を理解する。				
11	炎症性疾患	①軟部組織・骨・関節の感染症の代表的な疾患を理解する。 ②関節リウマチの症状・診断及び治療の概要を理解する。 ③関節リウマチ類似疾患を理解する。				
12	慢性関節疾患(退行性・代謝性)	①変形性関節症の病態・症状及び治療を理解する。 ②痛風の病態・症状及び治療を理解する。				
13	代謝性骨疾患	①骨粗鬆症の病態・症状及び治療を理解する。 ②くる病・骨軟化症の病態及び治療を理解する。				
14	骨・軟部組織腫瘍 熱傷・切断	①骨腫瘍・軟部組織腫瘍の発生及び治療を理解する。 ②熱傷の深度と範囲による重症度、関節拘縮や変形を理解する。 ③切断の概念・評価・断端管理、合併症を理解する。 ④				
15	先天性骨関節疾患 循環障害と壊死性疾患	①代表的な先天性骨関節疾患の病態を理解する。 ②四肢の循環障害、壊死性疾患の病態及び症状を理解する。				
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
	標準整形外科 第12版		内田 淳正		医学書院	2014年
参考図書等						
授業方法	講義形式。		成績評価方法	定期試験と授業への取組を総合的に評価。		
履修上の注意	理学療法、作業療法臨床において対象となることの多い疾病であり、専門領域につながる重要な科目である。暗記だけでなく、疾病の成り立ちを理解するよう復習をして下さい。					



講義科目		内科学			
担当講師	福岡和白病院 医師		授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数	2	
教育目標 内科疾患について疫学及び予後、病因と症状(疾病の成り立ち)、検査および代表的な治療を理解する。					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際	①内科学の概念について理解する。 ②内科的診断における診察法とその臨床的意義について理解する。 ③臨床検査について、その内容、実施方法、意義を理解する。			
2	症候学	①主要な症候の概念とそのメカニズムを理解する。 ②主要な症候を生じる病態とその関連疾患を学習する。			
3	循環器疾患 ①	①虚血性心疾患、高血圧の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②虚血性心疾患、高血圧をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を知る。			
4	循環器疾患 ②	①正常な12誘導心電図を理解する。 ②主な不整脈について波形の特徴、循環導帯を理解する。			
5	循環器疾患 ③	①主要な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②循環器疾患をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を学修する。			
6	呼吸器疾患 ①	①呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。			
7	呼吸器疾患 ②	①主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。			
8	消化管疾患	①主要な消化管疾患の症候、病態生理について理解する。 ②主な消化管疾患の概念、診断法、症状、治療法について知る。			
9	肝胆膵疾患	①主要な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。			
10	血液・造血器疾患	①貧血、リンパ節腫脹、出血性病変などの主な症状について知る。 ②主要な血液疾患の概念、病態、診断法、予後について理解する。			
11	代謝性疾患 ①	①糖代謝、蛋白質代謝、脂質代謝のつながりを知る。 ②糖尿病、痛風の病態と臨床的特徴を理解する。			
12	代謝性疾患 ②	①主要な代謝性疾患の病態と臨床的特徴を理解する。 ②ビタミン欠乏症・過剰症の臨床的特徴を理解する。			
13	内分泌疾患	①ホルモンの作用機序を理解する。 ②主要な内分泌疾患の概念、病態、治療法を学修する。			
14	腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患	①腎機能が障害されて起こる症状を理解する。 ②主要な腎疾患、泌尿器疾患の概念、病態、症状、検査法、治療法について理解する。 ③アレルギー反応のI～V型の生じ方と関連疾患について理解する。			
15	膠原病と類縁疾患、免疫不全症	①主要な膠原病と類縁疾患の症状、診断、治療について理解する。 ②免疫不全による疾患について理解する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	標準理学療法学・作業療法学 内科学		大成 浄志	医学書院	2004年
参考図書等	病気がみえる vol.1 消化器 第5版		医療情報科学研究所(編集)	メディックメディア	2016年
	病気がみえる vol.2 循環器 第3版			メディックメディア	2010年
	病気がみえる vol.4 呼吸器 第2版			メディックメディア	2013年
授業方法	講義形式	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	近年、内科領域のリハビリテーションの重要性が高まっており専門分野の基礎となる重要な科目です。国家試験に出題されることの多い疾患を中心に疾病の成り立ちを理解するよう心がけて下さい。				

講義科目		神経内科学		
担当講師	福岡和白病院 医師		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標 各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。				
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)		
1	神経内科学オリエンテーション	①神経内科学を学ぶ目的を理解する。 ②脳の構造と機能の概要を理解する。 ③中枢神経と末梢神経の違いを理解する。		
2	神経学的検査と臨床検査	①画像診断の基礎知識と診断基準を理解する。 ②脳脊髄液の検査と診断基準を理解する。 ③脳神経検査、身体機能検査の診断基準を理解する。		
3	神経症候学(1)	①頭蓋内圧亢進症状を理解する。 ②上位運動麻痺と下位運動麻痺の違いを理解する。 ③筋萎縮を理解する。		
4	神経症候学(2)	①錐体外路の機能を理解する。 ②錐体外路徴候を理解する。 ③錐体路徴候と錐体外路徴候の違いを理解する。		
5	神経症候学(3)	①運動失調の原因と病態を理解する。 ②運動麻痺と運動失調の違いを理解する。 ③感覚障害の分布と特徴を理解する。		
6	脳血管障害(1)	①脳血管障害の分類及び危険因子、病態を理解する。 ②脳血管障害の診断と治療の概要を理解する。		
7	脳血管障害(2)	①脳出血の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。 ②くも膜下出血の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。 ③脳梗塞の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。		
8	脳血管障害(3)	①水頭症の発生機序、診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序、診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序、分類、診断と治療を理解する。		
9	髄膜炎・脳腫瘍	①髄膜炎の病態及び症状を理解する。 ②脳腫瘍の部位と好発年齢及び予後の関係を理解する。 ③脳腫瘍の診断と治療を理解する。		
10	認知症	①認知症を伴う代表的な疾患を理解する。 ②脳血管性認知症とアルツハイマー病の違いを理解する。 ③代表的な認知症疾患の病態及び症状の特徴を理解する。		
11	変性疾患(1)	①パーキンソン病の病態及び症状を理解する。 ②パーキンソン症候群の病態及び症状を理解する。 ③パーキンソン病とパーキンソン症候群の違いを理解する。		
12	変性疾患(2)	①脊髄小脳変性症の病態及び症状を理解する。 ②多系統萎縮症の病態及び症状を理解する。		
13	脱髄疾患	①脱髄疾患の病態を理解する。 ②多発性硬化症の症状を理解する。 ③ギランバレー症候群の症状を理解する。		
14	神経筋疾患	①筋萎縮性側索硬化症の病態と症状を理解する。(神経原性) ②筋ジストロフィー症(典型例)の病態と症状を理解する。(筋原性) ③重症筋無力症の病態と症状を理解する。(神経筋接合部)		
15	疾病の成り立ちまとめ	学習の習熟度に合わせ補足		
教科書	書籍名		著者	出版社
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学		川平 和美 編	医学書院
参考図書等				
授業方法	教科書にそって講義を行う。適宜画像を提示。	成績評価方法	定期試験と授業への取組を総合的に評価。	
履修上の注意	解剖生理学に関わらせながら授業の復習を行い確実に理解を深めて下さい。神経内科に関連する基礎・専門は国家試験出題率が高い領域です。			

講義科目		基礎作業学Ⅲ					
担当講師		太田 研吾			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科	2年前期	実務経験	精神障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標		①様々な作業療法場面で用いられる作業活動と評価(分析・解釈)、介入方法を具体的に知る ②生活を捉える、治療的に作業を用いる視点を知る					
No.	講義計画	行動目標 ( 学 習 目 標 )					
1	限定的作業分析とその例	限定的作業分析の方法を知る					
2	限定的作業分析とその例	限定的作業分析の方法を知る					
3	運動とプロセス技能評価と作業療法	運動とプロセス技能評価を用いた作業療法の実際を知る					
4	運動とプロセス技能評価を用いた演習	運動とプロセス技能評価を用いた生活技能の分析を体験する					
5	運動とプロセス技能評価を用いた演習とまとめ	運動とプロセス技能評価を用いた生活技能の分析を体験と分析を理解する					
6	発達と作業活動	ごっこ遊び(ゲーム)の作業分析ができる					
7	発達と作業活動	ごっこ遊び(ゲーム)の作業分析から治療的活用法を考える					
8	認知行動と作業活動	セルフケア(更衣)の作業分析ができる					
9	認知行動と作業活動	セルフケア(更衣)の作業分析ができる					
10	認知行動と作業活動	セルフケア(更衣)の作業分析から治療的応用を考える					
11	役割と遂行にかかわる作業活動	家事動作(調理)の作業分析ができる					
12	役割と遂行にかかわる作業活動	家事動作(調理)の作業分析ができる					
13	役割と遂行にかかわる作業活動	家事動作(調理)の作業分析から治療的応用を考える					
14	目的に応じた作業活動	年中行事の作業分析をし、治療的応用を考える					
15	まとめ						
教科書	書 籍 名		著 者		出 版 社	発 行 年	
	作業活動実習マニュアル		古川 宏		医歯薬出版	2012	
参考図書等	ゴールドマスター 改訂第2版 作業学		長崎重信 監修		MEDICAL VIEW	2015	
	COPM・AMPSスターティングガイド		古川ひろみ 著		医学書院	2008	
標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版		濱口豊太(編)		医歯薬出版	2017		
授業方法	講義・演習・グループワーク。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う。			
履修上の注意	講義の聴講で完結するのではなく、それぞれの演習を通じて作業療法士がどのような視点で評価・分析・介入を行うのかを考えながら取り組むこと。						

講義科目		生活機能演習				
担当講師	沖 雅人				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	高齢者施設・在宅領域実務経験	単位数	1
教育目標		①医療福祉施設において情報収集及び生活場面の観察を専門的視点をもって実施できる ②対象者と適切なコミュニケーションを図ることができる ③情報収集及び観察内容を専門用語を用いて記録することができる				
No.	講義計画	行動目標 ( 学 習 目 標 )				
1	オリエンテーション	①生活機能演習の概要及び体験実習の目的を理解する ②リハビリテーション対象者の生活場面の活動制限を理解する				
2	生活機能の実際	①生活場面の観察のポイントを理解する ②情報収集の具体的方法を理解する				
3	体験実習①	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
4	体験実習②	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
5	体験実習③	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
6	体験実習④	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
7	体験実習⑤	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
8	体験実習⑥	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
9	体験実習⑦	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
10	体験実習⑧	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
11	体験実習⑨	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
12	体験実習⑩	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
13	体験実習⑪	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
14	体験実習⑫	①対象者に関する情報収集を行い記録できる ②対象者の生活場면을観察し記録できる ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する				
15	振り返りセミナー	①体験した症例の情報を整理し、生活機能全体の構造を検討する				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	特になし					
参考図書等						
授業方法	体験実習及び事前事後セミナーを実施。		成績評価方法	体験実習での成績および提出物、演習への取り組みを総合的に判断し評価する。		
履修上の注意	医療福祉施設におけるリハビリテーション対象者の生活場面と関わり、傾聴と共感的な関係性を経験しPTOTとして対象者の生活状況を専門的視点で観察記録できるよう努めてください。					

講義科目		評価学演習Ⅲ				
担当講師	近藤 昭彦			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標	①作業療法場面で活用される検査法について理解する ②各検査法の理論背景と生体における反応様式について理解し、実際の検査を施行することができる					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	反射・筋緊張検査	①反射の種類とメカニズムを説明できる②反射検査の目的と意義を説明できる③筋緊張の異常とメカニズムを説明できる④筋緊張検査の目的と意義を説明できる				
2	反射・筋緊張検査	①反射の検査の一部を実施し、結果を記録できる②実施した検査結果についての解釈ができる				
3	反射・筋緊張検査	①筋緊張検査の一部を実施し、結果を記録できる②実施した検査結果についての解釈ができる				
4	協調性検査	①協調運動障害の種類とメカニズムを説明できる②協調性検査の目的と意義を説明できる③検査結果から障害の原因を推察できる				
5	協調性検査	①協調性検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べることができる				
6	片麻痺機能検査	①片麻痺の運動機能回復の特徴を説明できる②片麻痺機能検査の目的・意義を説明できる③検査結果から運動機能の回復段階がわかる				
7	片麻痺機能検査	①片麻痺機能検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べることができる				
8	片麻痺機能検査	①片麻痺機能検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べることができる				
9	片麻痺機能検査	①片麻痺機能検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べることができる				
10	姿勢バランス	①姿勢バランスに関する用語の説明ができる②姿勢バランスを構成する機能要素を説明できる③姿勢反射の種類と統合レベルの説明ができる				
11	姿勢バランス	①バランス検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べることができる				
12	姿勢バランス	①バランス検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べることができる				
13	摂食・嚥下検査	①摂食・嚥下機能のメカニズムを説明できる②摂食嚥下機能検査の目的と意義を説明できる③摂食・嚥下機能検査の方法を説明できる				
14	摂食・嚥下検査	①摂食・嚥下機能のメカニズムを説明できる②摂食嚥下機能検査の目的と意義を説明できる③摂食・嚥下機能検査の方法を説明できる				
15	まとめ	①履修した検査法の説明ができる				
教科書	書籍名	著者	出版社	発行年		
	神経診察クローズアップ 改訂第2版 リハビリテーション基礎評価学 第1版 病気が見えるVol.7 脳・神経 第2版	鈴木則宏 潮見 泰茂, 下田 信明 編集 医療情報科学研究所	MEDICAL VIEW 羊土社 メディックメディア	2015 2014 2011		
参考図書等	PTOTのための測定評価5 バランス評価 診察と手技がみえるVol.1 第2版 ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版	監修 福田修 古谷伸之 編集 田崎義昭	三輪書店 MEDICAL VIEW 南山堂	2008 2007 2016		
	授業方法	講義・演習・グループワーク。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う。		
履修上の注意	毎回の評価対象や検査内容について復習し理解しておく。					

講義科目		評価学演習Ⅳ				
担当講師	桑原 健志			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標	①作業療法評価における基礎概念を学び、モデルケースで全体像を把握し現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する					
No.	講義計画	行動目標 ( 学 習 目 標 )				
1	オリエンテーション 作業療法における評価とは	① 作業療法の評価の一連の流れがイメージでき、説明できる ② 作業療法評価の位置づけ、目的を説明できる言える ③ 身体面・精神面の評価の種類を言える				
2	評価の基礎① 情報収集(カルテ・他部門)	① 評価計画を立て、優先順位をつけることができる ② 情報の種類と収集の目的が言える ③ 他職種の持つ情報について説明できる				
3	評価の基礎② 面接と観察	① 面接・観察により評価できる内容を説明できる ② 面接の内容を想定できる・観察の視点を焦点化できる ③ 信頼関係、対人距離について説明できる				
4	評価の基礎③ 検査・測定	① 運動機能・神経学的評価の内容と目的を列挙できる ② ADL・IADL評価の内容と目的を列挙できる ③ 精神・心理評価の内容と目的を列挙できる				
5	評価の基礎④ 統合と解釈および現状能力と生活を妨げている要因の分析	① 集めた情報の統合と解釈ができる ② 問題点を列挙し優先順位を考えることができる ③ ICFの各項目間のつながりと影響を説明できる				
6	評価の基礎⑤ 目標及び治療計画の設定 治療プログラムの立案	① 目標及び治療計画を設定することができる ② 治療プログラムを立案できる ③ 段階づけや将来像を考慮し説明できる				
7	評価の基礎⑥ 記録の仕方	① 記録方法・手段を適切に選び、表現できる ② 記録の方法と情報の取り扱いについて説明できる				
8	意識・コミュニケーションの評価 意識レベルの評価 コミュニケーションの評価	① 意識レベル・コミュニケーションの評価ができる ② 理解・表出・注意のコミュニケーションへの影響を説明できる				
9	姿勢評価① 姿勢の診かたと記載方法	① 観察による評価の概要、意義、方法を説明できる ② 姿勢評価の観察ポイントを列挙できる ③ 観察評価の具体的方法を説明できる				
10	姿勢評価② 姿勢評価(演習)	① 姿勢評価の概要、意義、方法を説明できる ② 観察による姿勢評価を実施できる ③ 観察評価の結果を適切な方法で記録できる				
11	動作分析と記載方法① 動作の診かたと記載方法	① 動作分析(観察)の評価の概要、意義、方法を説明できる ② 動作の観察ポイントを列挙できる ③ 記録方法を選び、実施できる				
12	動作分析と記載方法② 動作分析と記載(演習)	① 観察を行い、観察ポイントを列挙できる ② 記載方法を選択し、表現できる ③ 観察評価の結果を適切な方法で記録できる				
13	ADL観察と記載方法 ADL観察と記載(演習)	① 実際のADLの一連の動作の観察を行う ② 観察内容から作業遂行機能、日常生活について評価の体験ができる ③ 観察評価の結果を適切な方法で記録できる				
14	活動の観察と記載方法 活動の観察と記載(演習)	① 作業活動模擬場面の観察を行い、観察ポイントを列挙できる ② 観察内容から作業遂行機能、日常生活について評価の体験ができる ③ 評価結果の解釈を行い、学生間で討議できる				
15	まとめ 1回～14回の復習とポイント	① 作業療法の評価の一連の流れを説明できる ② 作業療法評価の位置づけ、目的を説明できる				
教科書	書 籍 名	著 者	出 版 社	発 行 年		
	標準 作業療法評価学 第3版 リハビリテーション基礎評価学 第2版 日常生活活動 第2版	能登真一 他 潮見泰蔵 千住 秀明	医学書院 羊土社 神陵文庫	2017 2016 2007		
参考 図書等	作業療法の面接技法 COPM・AMPSスターティングガイド 姿勢・動作・歩行分析	香山明美・小林正義 編集 吉川ひろみ 著 畠中泰彦 編集	三輪書店 医学書院 羊土社	2009 2008 2015		
	授業 方法	講義・演習・グループワーク	成績評価 方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の 注意	どのような視点で各種評価が行われているか、演習を通して理解する					

講義科目		日常生活活動学演習Ⅱ					
担当講師		松崎 正晃			授業時間数	30	
開講年次		昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標		①ADL評価の意義と代表的ADL検査のバーセルインデックス、FIMの基本的検査方法を理解する ②IADL評価を理解する ③事例を通しての基本動作、セルフケア、IADLの結びつきについて理解を深めた後、生活行為向上マネジメントの事例を通して基本動作、ADL援助の重要性について学ぶ					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）					
1	ADL評価、IADL評価の概要	ADL評価、IADL評価の意義と方法を理解する。評価表の特徴がわかる。バーセルインデックスとFIMの概要を理解する					
2	ADL評価	FIMの概要を理解する(評価項目・採点方法)					
3	ADL評価	FIMの運動項目の採点方法を理解する					
4	ADL評価	FIMの認知項目の採点方法を理解する。事例をもとに採点方法を理解する					
5	起居動作について	起居・移乗・移動動作を構成する動作について理解する					
6	起居動作について	起居動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、支援するポイントを理解する					
7	移乗動作について	移乗動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、支援するポイントを理解する					
8	移乗動作について	移乗動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、自立度別の支援するポイントを理解する					
9	移動動作について	杖・歩行器を使用した動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、支援するポイントを理解する					
10	移動動作について	車椅子を使用した動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、支援するポイントを理解する					
11	基本動作、ADLとIADL	事例を通し、基本動作、ADLとIADLの結びつきについて説明できる					
12	基本動作、ADLとIADL	事例を通し、基本動作、ADLとIADLの結びつきについて説明できる					
13	生活行為向上マネジメント	事例を通し、基本動作、ADL、IADL援助の重要性について学ぶ					
14	生活行為向上マネジメント	事例を通し、基本動作、ADL、IADL援助の重要性について学ぶ					
15	生活行為向上マネジメント	事例を通し、基本動作、ADL、IADL援助の重要性について学ぶ					
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年	
	日常生活活動 第2版		千住 秀明		神陵文庫	2007	
参考図書等	脳卒中の機能評価—SIASとFIM(基礎編)		千野直一他		金原出版株式会社	2015	
	ゴールドマスター 改訂第2版 日常生活活動学(ADL)		木之瀬 隆 編				MEDICAL VIEW
授業方法	講義・演習・グループワーク。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う。			
履修上の注意	自分自身やクラスメートの体験をもとに再確認し分析を通して理解を深めること。						

講義科目		装具学				
担当講師	堀川 和馬			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標	①装具療法の概要を学び、疾患別の装具の適応について理解する ②装具の採型から作成、適合判定の過程を理解する					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	装具の法制度と原則・分類について	① 補装具(義肢装具)の支給にかかわる法制度を説明できる ② 装具とは何か説明できる ③ 装具の基本原則と分類を説明できる				
2	下肢装具について	① 下肢装具の分類を説明できる ② 下肢装具を構成する部品名とその使用目的を説明できる				
3	体幹装具について	① 体幹装具の分類を説明できる ② 体幹装具を構成する部品とその使用目的を説明できる				
4	上肢装具について	① 上肢装具の目的を説明できる ② 上肢装具を構成する部品の特徴・使用目的を説明できる				
5	脳血管障害の装具療法	① 脳血管障害の主な上肢装具とその特徴を説明できる ② 脳血管障害の主な下肢装具とその特徴を説明できる ③ BRSの回復段階に沿った装具の適応について説明できる				
6	関節リウマチの装具療法	① 関節リウマチ変形に適した装具をあげることができる				
7	末梢神経損傷の装具療法	① 橈骨神経麻痺に適した装具をあげることができる ② 尺骨神経麻痺に適した装具をあげることができる ③ 正中神経麻痺に適した装具をあげることができる				
8	頸髄損傷の装具療法	① 頸髄損傷の残存機能に適した装具をあげることができる ② 胸腰髄損傷のレベルと適応する装具を挙げることができる ③				
9	スプリント製作の基本的流れ	① スプリント製作の基本的な流れを説明できる				
10	多目的トレース法と各種スプリント	① 多目的トレース法とは何か説明できる ② 様々なスプリントの型紙を作成しその名称をあげることができる				
11	スプリント製作の実施	① 実際にスプリントを製作し、製作過程と適合判定を説明できる				
12	スプリント製作の実施	① 実際にスプリントを製作し、製作過程と適合判定を説明できる				
13	スプリント製作の実施	① 実際にスプリントを製作し、製作過程と適合判定を説明できる				
14	スプリント製作の実施	① 実際にスプリントを製作し、製作過程と適合判定を説明できる				
15	まとめ	① 国家試験問題を通してポイントを整理できる				
教科書	書籍名	著者	出版社	発行年		
	(T1)義肢装具学 第4版	川村次郎 他	医学書院	2015		
参考図書等	(S1)義肢装具のチェックポイント 8版	日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会 監修	医学書院	2014		
	(S2)作業療法学全書 改訂第2版 義肢装具学	日本作業療法士協会 監修	協同医書出版	2009		
	(S3)手のスプリントのすべて	矢崎 潔	三輪書店	2015		
授業方法	講義・演習・グループワーク。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う。			
履修上の注意	特に上肢装具において変形と装具の関係を理解するよう学習を進めて下さい。					



講義科目		中枢神経系障害の作業療法学 I					
担当講師		桑原 健志			授業時間数	60	
開講年次		昼間コース	作業療学科 2年前期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	2
教育目標		①身体障害分野において対象となる疾患の病態・特徴・関連して現れる症状を理解する ②病態から必要となる評価とその意味を知り、治療・訓練へのアプローチなど作業療法実施における過程を知る					
No.	講義	計画	行動	目標 ( 学 習 目 標 )			
1	脳と神経の基礎知識	①錐体路障害・錐体外路障害・小脳障害の概要 ②上位・下位運動ニューロン障害の違い	16	グループワーク	調べ学習と情報の整理		
2	脳と神経の基礎知識	③脳損傷と神経症状の概要	17	グループワーク	調べ学習と情報の整理		
3	画像所見	CT、MRI画像について	18	グループワーク	発表・実演・配布資料の準備		
4	脳血管障害の病態	①NINDS分類について②診断と治療の概要③病期について④意識障害について	19	グループワーク	発表・実演・配布資料の準備		
5	脳血管障害の障害像と機能的予後	①運動障害と知覚障害の概要②高次脳機能障害・知的障害等の概要③目標設定と機能的予後	20	グループワーク	発表1～4班(上肢機能)		
6	脳血管障害の評価	①運動機能・感覚・知覚、平衡機能、上肢機能の評価②その他の評価	21	グループワーク	発表5～8班(上肢機能)		
7	急性期の脳血管障害①OT概要	①急性期リハにおける作業療法的目的②急性期のスクリーニングテスト③急性期のリスク管理	22	グループワーク	1～3班(基本動作とADL)		
8	急性期の脳血管障害②OTの実際	①廃用症候群②ポジショニングの方法及び留意点③関節可動域訓練	23	グループワーク	発表4～6班(基本動作とADL)		
9	回復期の脳血管障害①OT概要	①回復期リハにおける作業療法的目的②作業療法評価の項目③回復期のリスク管理	24	グループワーク	発表7～8班(基本動作とADL)補足とフィードバック		
10	回復期の脳血管障害②身体機能訓練	①機能回復訓練②上肢機能回復訓練、自己管理の方法の概要③ストレッチとROM訓練	25	まとめ	補足説明と共有化		
11	回復期の脳血管障害③生活活動技能訓練	①基本動作の訓練・指導方法について	26	まとめ	補足説明と共有化		
12	回復期の脳血管障害④生活活動技能訓練	①ADLの訓練・指導方法について	27	まとめ	補足説明と共有化		
13	回復・維持期の脳血管障害⑤生活活動技能訓練	①IADL・社会的技能における訓練・指導方法について ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺	28	錐体外路系障害① パーキンソン病の病態及び評価	①4徴候について ②症状がADLに与える影響について ③評価項目の列挙 ④ヤールの分類について		
14	合併症について	肩関節亜脱臼・肩手症候群・疼痛(視床痛)・自発性の低下・失禁など(前頭葉症状)	29	錐体外路系障害② パーキンソン病のOTの実際	①作業療法の目的及び介入の基本原則 ②ADL指導の留意点		
15	グループワーク	片麻痺患者の作業療法①上肢機能訓練②基本動作訓練③ADL訓練について調べ発表する	30	錐体外路系障害③ パーキンソン病と脳血管性パーキンソニズム	①症状の違いについて ②作業療法介入方法の違いについて		
教科書	書 籍 名		著 者		出 版 社	発 行 年	
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害		菅原洋子		協同医書出版社	2016	
ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学		長崎重信 監修・編集		協同医書出版社	2015		
ADLとその周辺 第3版		伊藤利之		医学書院	2015		
参考図書等	絵でみる脳と神経 ―しくみと障害のメカニズム― 第4版		馬場 元毅		医学書院	2009	
	病気が見える vol7 脳・神経		医療情報科学研究所		メディックメディア	2011	
ゴールドマスター改訂第2版 作業療法評価学		長崎重信 監修・編集		MEDICAL VIEW	2015		
図解 作業療法技術ガイド 第3版		石川齊 古川宏		文光堂	2011		
授業方法	アクティブラーニング(グループワーク)で、上肢機能訓練やADL訓練をまとめ発表。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断する。			
履修上の注意	初回にグループワークの指示を行います。発表に間に合うように準備を進めること。授業をただ聞くだけでなく自ら考え・調べる学習を行うよう望みます。						

【講師用資料】

No.	重要度 / 理解度 / 具	体的内容 / 教授内容
1	① 運動障害における錐体路障害、錐体外路障害、小脳障害の概要を理解し説明できる(全書P32-38 病気164-175) ② 上位運動ニューロン障害と下位運動ニューロン障害の違いを理解し説明できる(病気P168-175)	① 回復段階に応じた上肢機能訓練について考え、理解し説明できる BRS「stage1-2」「stage2-3」「stage3-4」「stage4-5」の4段階 ② 片麻痺患者を想定した、基本動作、ADL訓練を考え理解し説明できる 基本動作、ADL訓練については下記参照
2	① 神経症状とは何か理解し説明できる ② どのような症状が出るのかを知り説明できる ③ (全書P49-52、ゴールドP80-82) ④	① 回復段階に応じた上肢機能訓練について考え、理解し説明できる BRS「stage1-2」「stage2-3」「stage3-4」「stage4-5」の4段階 ② 片麻痺患者を想定した、基本動作、ADL訓練を考え理解し説明できる 基本動作、ADL訓練については下記参照
3	① 脳の解剖と脳画像について理解し説明できる ② 大脳の局在を理解し説明できる ③ (病気P2-5、16-17、46-49) ④	① 回復段階に応じた上肢機能訓練について考え、理解し説明できる BRS「stage1-2」「stage2-3」「stage3-4」「stage4-5」の4段階 ② 片麻痺患者を想定した、基本動作、ADL訓練を考え理解し説明できる 基本動作、ADL訓練については下記参照
4	① NINDS分類について知り説明できる ② 診断と治療の概要を理解する ③ 病期について知り説明できる(全書P49 病気P60-85、92-119) ④ 意識障害と予後に与える影響について知り説明できる(全書P53、ゴールドP83-91)	① 回復段階に応じた上肢機能訓練について考え、理解し説明できる BRS「stage1-2」「stage2-3」「stage3-4」「stage4-5」の4段階 ② 片麻痺患者を想定した、基本動作、ADL訓練を考え理解し説明できる 基本動作、ADL訓練については下記参照
5	① 運動障害と知覚障害の概要を理解し説明できる(全書P50-52) ② 高次脳機能障害・知的障害等の概要を理解し説明できる(全書P50、ゴールドP83-91) ③ 目標設定に必要な機能的予後の考え方を説明できる(全書P53)	① 回復段階に応じた上肢機能訓練について述べる事ができる BRS「stage1-2」「stage2-3」「stage3-4」「stage4-5」の4段階
6	① 運動機能および感覚・知覚、平衡機能、上肢機能の評価を理解し説明できる ② 高次脳機能・精神心理評価を理解し説明できる(ゴールドP83-91、全書P53-57)	① 回復段階に応じた上肢機能訓練について述べる事ができる BRS「stage1-2」「stage2-3」「stage3-4」「stage4-5」の4段階
7	① 急性期のリハビリテーション及び作業療法の目的を理解する(ゴールドP82全書P59-60) ② 急性期のスクリーニングテストを理解する ③ 急性期のリスク管理について理解し説明できる	① 片麻痺患者を想定した、基本動作、ADL訓練を述べる事ができる 基本動作、ADL訓練については下記参照
8	① 廃用症候群について理解し説明できる ② ポジショニングの方法及び留意点を理解し説明できる ③ 関節可動域訓練について理解し説明できる ④ (全書P38-40、18-24)	① 片麻痺患者を想定した、基本動作、ADL訓練を述べる事ができる 基本動作、ADL訓練については下記参照
9	① 回復期のリハビリテーション及び作業療法の目的を理解し説明できる(ゴールドP95-97、全書P60-71) ② 作業療法評価の項目を列挙できる ③ 回復期のリスク管理を理解し説明出来る	① 片麻痺患者を想定した、基本動作、ADL訓練を述べる事ができる 基本動作、ADL訓練については下記参照
10	① 上肢の基本的機能を理解したうえで、機能回復訓練の基本的考え方を理解し説明できる ② 上肢機能回復訓練の方法の概要を知る(全書P60-64) ③ ストレッチ・ROM訓練の基本を理解する(全書P18-24)	① グループワークまとめ ② 各班での発表の共有化 ③ ④
11	① 回復期のリハビリテーション及び作業療法の目的を理解し説明できる(ゴールドP95-97、全書P60-71)	① グループワークまとめ ② 各班での発表の共有化 ③ ④
12	① 起居移動動作及びセルフケアにおける訓練指導方法を理解し説明できる ② ADL訓練の実際を知り説明できる(ゴールドP95-97、全書P66-68)	① グループワークまとめ ② 各班での発表の共有化 ③ ④
13	① IADL、社会的技能における作業療法介入の方法を理解し説明できる ② 住環境・自助具・補装具を理解し説明できる(全書P68-74、ゴールドP98)	① 病態と障害像を理解し説明できる ② 基本的治療を理解し説明できる ③ パーキンソン病の4徴候を理解し説明できる ④ ヤールの分類を説明できる(全書P210-214、ゴールドP350-355)
14	① 視床痛、肩手症候群、亜脱臼の病態を理解し説明できる ② 疼痛に対する作業療法の目的及び手段を理解し説明できる(一部物理療法を紹介する) ③ 前頭葉症状とは何かを知る	① 作業療法の目的及び介入の基本原則を説明できる ② ADL指導の留意点を説明できる ③ (全書P214-218、ゴールドP355-362) ④
15	① グループワークで上肢機能訓練やADL訓練をまとめ発表する ② グループごとの課題について、調べ学習と情報の整理、発表スライドや配布資料を作成する	① 脳血管性パーキンソンニズムの病態を知り説明できる ② ADL指導の留意点を理解し説明できる ③ (ゴールドP355、病気P287-289) ④

※特記事項

上肢機能訓練(運動促進・分離を促す・麻痺手管理・利き手交換)  
基本動作(寝返り・起き上がり・移動・移乗・床からの立ち上がり)ADL訓練(食事整容・更衣(上下衣・靴・装具)・トイレ・入浴)

講義科目		中枢神経系障害の作業療法学Ⅱ				
担当講師	松崎 正晃				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療学科 2年後期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標	①脊髄損傷の症状及び治療の概要を理解する ②髄節レベルに応じた運動機能及びADL機能について理解し、評価及び治療の方法を理解する					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	小脳系障害① 病態及び評価	①小脳症状の理解 ②症状がADLに与える影響③運動失調の評価について④ロンベルグ徴候について				
2	小脳系障害② OTの実際	①作業療法の目的及び介入の基本原則 ②ADL指導の留意点				
3	神経・筋疾患(MS)に対する作業療法とADL	多発性硬化症(MS)の病態を説明できる 作業療法の目的及び介入の基本原則を説明できる ADLの支援について理解する				
4	神経・筋疾患(GBS)に対する作業療法とADL	ギランバレー症候群(GBS)の病態と障害像を説明できる 作業療法の目的及び介入の基本原則を説明できる ADLの支援について理解する				
5	神経・筋疾患(ALS)に対する作業療法とADL	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の病態と障害像を説明できる 作業療法の目的及び介入の基本原則を説明できる ADLの支援について理解する				
6	実技	神経筋疾患と小脳障害・錐体外路症状に対する評価と治療の実際を理解する				
7	脊椎・脊髄構造について 脊髄損傷のタイプと病態	基本的な脊椎・連結(靭帯)・脊髄の構造と脊髄横断面をもとに各伝導路と自律神経、脊髄神経を説明することができる。脊髄損傷の病態と主な症状、合併症、随伴症状について説明できる。				
8	脊髄損傷における評価 脊髄損傷の障害発生から予後まで	脊髄損傷の運動障害、感覚障害、自律神経障害、尿路障害、呼吸障害の概要を理解する。完全麻痺と不完全麻痺に臨床像の特徴を理解する。ザンコリーの分類、フランケルの分類、ASIA機能障害尺度等の脊髄損傷で用いる代表的評価尺度を説明することができる。				
9	頸髄レベルにおける(C4, 5)残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄損傷の頸髄4・5の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを理解する。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。				
10	頸髄レベルにおける(C4, 5)残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄損傷の頸髄4・5の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを述べる事ができる。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。				
11	頸髄レベルにおける(C4, 5)ADL訓練の実際と自助具	頸髄髄節レベルごとのADL動作と自助具の利用を実際に体験し、その特徴と各髄節レベルの違いを理解し説明できる。(※グループワーク)				
12	頸髄レベルにおける(C6, 7)残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄損傷の頸髄6・7の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを述べる事ができる。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。				
13	頸髄レベルにおける(C6, 7)残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄損傷の頸髄6・7の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを理解する。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。				
14	頸髄レベルにおける(C6, 7)ADL訓練の実際と自助具	頸髄髄節レベルごとのADL動作と自助具の利用を実際に体験し、その特徴と各髄節レベルの違いを理解し説明できる。(※グループワーク)				
15	頸髄レベル(C8)、腰仙髄レベルにおける残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄レベル(C8)、腰仙髄レベルの各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを理解する。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学		編集 菅原洋子 長崎重信 監修・編集	協同医書出版社 MEDICAL VIEW	2012 2015	
参考図書等	頸髄損傷のリハビリテーション 脊髄損傷 ー包括的リハビリテーションー 病気が見えるVol.7 脳・神経 第2版		津山直一監修 二瓶隆一・木村哲彦・陶山哲夫編集 初山泰弘 二瓶隆一(編) 編集:医療情報科学研究所	協同医書出版社 医学書院 MEDIC MEDIA	1998 1996 2017	
	授業方法	講義・演習・グループワーク	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	授業ごとの知識の確認と復習はもちろんであるが常に疑問を持ち主体的に授業に参加すること					

講義科目		運動器系障害の作業療法学				
担当講師	堀川 和馬 沖 雅人			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	2
教育目標	整形疾患(骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など)の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療の選択ができる					
No.	講義	計画	行動	目標 ( 学 習 目 標 )		
1	末梢神経障害	末梢神経の解剖・生理について理解する	16	骨折	3大骨折(腰椎圧迫骨折)の病態と治療を理解し、説明できる	
2	末梢神経障害	上肢機能を支配する末梢神経について理解する	17	退行性疾患	変形性膝関節症について、病態や特徴、症状、治療について、説明できる	
3	末梢神経障害	神経損傷の原因、分類について説明することができ、修復過程や修復方法(機能再建術)について説明できる	18	退行性疾患	頸椎症性脊髄症について、病態や特徴、症状、治療について、説明できる	
4	末梢神経障害	各神経損傷(主に正中神経麻痺)の機能解剖および損傷の病因、病理、症状を理解し、評価・治療の選択ができる	19	手外科疾患	手外科疾患の特徴、合併症、治療を理解する上で必要な手の機能解剖について理解する	
5	末梢神経障害	各神経損傷(主に尺骨神経麻痺)の機能解剖および損傷の病因、病理、症状を理解し、評価・治療の選択ができる	20	手外科疾患	手の屈筋腱損傷の特徴、合併症、治療を理解する	
6	末梢神経障害	各神経損傷(主に橈骨神経麻痺)の機能解剖および損傷の病因、病理、症状を理解し、評価・治療の選択ができる	21	手外科疾患	手の屈筋腱損傷の特徴、合併症、治療を理解する	
7	末梢神経障害	各種検査方法と評価の手順を経験する	22	手外科疾患	手の屈筋腱損傷と評価	
8	末梢神経障害	各種検査方法と評価の手順を経験する	23	関節リウマチ	関節リウマチの定義、病態について理解する	
9	骨折	骨折の定義、分類、治癒過程、合併症、骨折治療の基本原則を理解し、説明できる	24	関節リウマチ	関節リウマチの経過、分類、特徴的変形について、理解する	
10	骨折	骨折の二次障害の発生の機序と対応方法を理解し、評価・治療の選択ができる	25	関節リウマチ	関節リウマチの機能障害とADLへの対応について理解し、説明できる	
11	骨折	3大骨折(大腿骨頸部骨折)の病態と治療を理解し、説明できる	26	関節リウマチ	関節リウマチの評価治療について説明できる	
12	骨折	3大骨折(大腿骨頸部骨折)の病態と治療を理解し、説明できる	27	肩関節疾患	腱板損傷の症状・評価、治療について理解し、説明できる	
13	骨折	3大骨折(橈骨遠位端骨折)の病態と治療を理解し、説明できる	28	熱傷	熱傷の分類・評価・治療について理解し、説明できる	
14	骨折	3大骨折(橈骨遠位端骨折)の病態と治療を理解し、説明できる	29	熱傷	熱傷の分類・評価・治療について理解し、説明できる	
15	骨折	3大骨折(腰椎圧迫骨折)の病態と治療を理解し、説明できる	30	まとめ	骨関節疾患の知識の整理	
教科書	書 籍 名		著 者		出版社	発行年
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害		菅原洋子 編集		協同医書出版社	2016
ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学		長崎 重信 監修・編集		MEDICAL VIEW	2015	
病気が見える Vol.11 運動器・整形外科		医学情報科学研究所		メディックメディア	2017	
参考図書等	基礎運動学 第6版 補訂		中村 隆一		医歯薬出版	2017
	骨折の画像診断 改訂版		福田 国彦 (編)		羊土社	2014
	作業療法士のためのハンドセラピー入門 第2版		中田 真由美・大山 峰生/著		三輪書店	2006
授業方法	講義・演習を中心に骨関節系障害の作業療法評価・治療に必要な知識・技能の習熟を図る		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	作業療法治療を理解する上において、各疾病の知識が必要不可欠です。疾病について予習復習をして授業に臨んでください					

講義科目		発達障害の作業療法学			
担当講師	奈良 進弘		授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数	1	
教育目標 ①運動発達の障害について原因疾患、障害像および作業療法支援の方法を理解する					
No.	講義計画	行動目標 ( 学 習 目 標 )			
1	発達障害総論 定義・歴史・評価	①発達障害の定義を説明できる ②発達障害分野における一般的評価には何があるか列挙できる ③評価実施から治療計画の流れと諸注意には何があるか言える			
2	発達検査(正常発達・反射反応)	①正常運動発達の流れを説明できる ②反射・反応の名称・出現時期・統合時期・実施方法を説明できる			
3	発達検査(DDST)	①DDSTの特徴、実施方法を説明できる ②DDSTの結果の解釈ができる			
4	発達検査(遠城寺式検査表)	①遠城寺式検査法の特徴、実施方法を説明できる ②遠城寺式検査法の結果の解釈ができる			
5	発達検査(JSI-R)	①感覚調整障害の概要を説明できる ②JSI-Rの概要を説明できる ③感覚調整機能障害を持つ小児の遊びの特徴、生活像をイメージできる			
6	脳性麻痺総論	①脳性麻痺の定義が言える ②脳性麻痺の原因を説明できる ③脳性麻痺の分類方法と各タイプを説明できる			
7	痙直型脳性麻痺児の発達と問題点	①痙直型脳性麻痺のタイプに応じた特徴的発達過程を説明できる ②痙直型脳性麻痺のタイプに応じた問題点を説明できる			
8	痙直型脳性麻痺児の評価と治療	①痙直型脳性麻痺に必要な評価を挙げることができる ②痙直型脳性麻痺のタイプに応じた問題点と介入方法を挙げることができる			
9	アトーゼ型脳性麻痺児の発達と問題点	①アトーゼ型脳性麻痺のタイプに応じた特徴的発達過程を説明できる ②アトーゼ型脳性麻痺のタイプに応じた問題点を説明できる			
10	アトーゼ型脳性麻痺児の評価と治療	①アトーゼ型脳性麻痺に必要な評価を挙げることができる ②アトーゼ型脳性麻痺の問題点に応じた介入方法を挙げることができる			
11	脳性麻痺児まとめ				
12	発達検査(GMFCS)	①GMFCSの特徴、実施方法を説明できる ②GMFCSの結果の解釈ができる			
13	筋ジストロフィー症の特徴と評価	①筋ジストロフィー症の代表的タイプとその特徴を説明できる ②筋ジストロフィー症に必要な評価を挙げることができる			
14	筋ジストロフィー症の問題点と治療	①筋ジストロフィー症のステージに応じた問題点を挙げることができる ②筋ジストロフィー症のステージと問題点に応じた介入方法を挙げることができる			
15	二分脊椎症の特徴と問題点、評価と治療	①二分脊椎症の特徴を説明できる ②二分脊椎症に必要な評価を挙げることができる ③二分脊椎症の問題点に応じた介入方法を挙げることができる			
教科書	書 籍 名		著 者	出 版 社	発 行 年
	標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版 脳性麻痺の運動障害 原著第2版		福田恵美子(編) 寺沢幸一・梶浦一郎 訳	医学書院 医歯薬出版	2014 1985
参考図書等	DENVER II-デンバー発達判定法- 遠城寺式乳幼児分析発達検査法		社団法人日本小児保健協会 遠城寺宗徳	日本小児医事出版 慶応義塾大学出版	2003 2009
授業方法	講義・演習。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う。		
履修上の注意	人間発達学の復習を行い、正常発達を理解して授業に臨むこと。				

講義科目		内部系障害の作業療法学Ⅰ					
担当講師		松崎 正晃			授業時間数	30	
開講年次		昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標		①循環器系の代表的な疾患について理解し作業療法介入方法を理解する ②代謝系疾患に対する作業療法の基本的介入方法を理解する					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)					
1	オリエンテーション 内部障害について:概念、近年の傾向、障害の特性、作業療法での支援方法	①内部障害の概念について理解し、説明できる ②エネルギー代謝(栄養素、エネルギー供給系、基礎代謝)について説明できる					
2	循環器の基本的解剖・生理について	①循環器に関する基本的解剖・生理について理解する ②運動と循環について運動生理学的に理解する					
3	心疾患:病態と症状	①代表的疾患(虚血性心疾患、心不全)の病態、症状、治療、経過について理解する					
4	心疾患:作業療法介入について(リスク管理)	①代表的疾患(虚血性心疾患、特に心筋梗塞)に対するリスク管理、運動負荷試験、冠危険因子について説明できる					
5	心疾患:作業療法介入について(評価)	①ADLへの影響(障害像)を理解し作業療法評価の目的・項目を列挙し説明できる					
6	心疾患:作業療法介入について(目標設定)	①ADLへの影響(障害像)を理解し作業療法評価結果の解釈と目標設定の方法を説明できる					
7	心疾患:作業療法介入について(治療)	①代表的疾患(虚血性心疾患、特に心筋梗塞)に対する作業療法治療・援助内容について理解する					
8	代謝障害とは 糖代謝のメカニズム・腎臓のしくみと働き	①糖代謝のメカニズムについて理解する ②腎臓のしくみと働きについて解剖生理学的に理解する ③運動とホルモンについて運動生理学的に理解する ④筋収縮とエネルギー供給系を運動生理学的に理解する					
9	代謝障害(糖尿病):糖尿病の病態と基本的治療・合併症について	①糖尿病の病態、基本的治療、合併症について理解する ②運動と生活習慣病について運動生理学的に理解する					
10	代謝障害(糖尿病):作業療法介入について(リスク管理、評価、目標設定)	①糖尿病、合併症によるリスク管理、ADLへの影響を理解し、それらに対する評価の目的・項目を列挙できる					
11	代謝障害(糖尿病):作業療法介入について(治療)	①糖尿病の作業療法について、治療の考え方・ADL指導について理解する					
12	代謝障害(腎臓疾患):腎臓疾患の病態と基本的治療合併症について	①腎臓疾患の病態、治療について理解する					
13	代謝障害(腎臓疾患):作業療法介入について(リスク管理、評価、目標設定)	①腎臓疾患(特に透析治療)によるリスク管理、ADLへの影響を理解し、それらに対する評価の目的・項目を列挙できる					
14	代謝障害(腎臓疾患):作業療法介入について(治療)	①腎臓疾患(特に透析治療)の作業療法における目標設定、治療・ADL指導について理解できる					
15	心疾患・代謝障害まとめ	①それぞれの疾患の評価目的と項目を列挙し説明できる。目標設定と作業療法治療・援助内容について理解する					
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年	
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害		菅原洋子		協同医書出版社	2016	
参考図書等	ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学		長崎重信 監修・編集		MEDICAL VIEW	2015	
	病気が見える Vol.2 循環器 第4版		医学情報科学研究所		メディックメディア	2017	
	ゴールドマスター6 内部障害系理学療法学		柳澤健・編集		MEDICAL VIEW	2012	
授業方法	講義・演習・グループワーク。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う。			
	病気が見える Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第2版			医療情報科学研究所		メディックメディア	2017
履修上の注意	内部障害理学療法学 循環・代謝		石川朗・総編集		中山書店	2014	
	1年次に履修した循環器(心臓、血管、リンパ)、泌尿器の解剖・生理学について十分、復習しておきましょう。内部障害での障害は目に見えにくいイメージしにくいいため、障害像、ADLへの影響をイメージしながら履修してください。						

講義科目		内部系障害の作業療法学Ⅱ				
担当講師	松崎 正晃			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標	①呼吸器系の代表的な疾患について理解し作業療法介入方法を理解する ②悪性腫瘍に対する作業療法の基本的介入方法を理解する					
No.	講義計画	行動目標 ( 学 習 目 標 )				
1	呼吸器疾患:呼吸器系の基本的解剖	①呼吸器系の解剖学・運動学について理解できる				
2	呼吸器疾患:呼吸器系の生理について	①呼吸器系の生理学について理解できる ②運動と呼吸について運動生理学的に理解する				
3	呼吸器疾患:病態と症状	①呼吸不全について理解する②呼吸器疾患の病態(閉塞性肺疾患(特にCOPD)・拘束性肺疾患)、症状、治療、経過について理解できる				
4	呼吸器疾患:作業療法介入について(リスク管理)	①呼吸器疾患によるリスクとその管理について理解できる②呼吸器疾患の予後と在宅酸素療法について理解できる				
5	呼吸器疾患:作業療法介入について(評価)	①ADLへの影響(障害像)を理解し、作業療法評価の目的・項目を列挙し説明できる				
6	呼吸器疾患:作業療法介入について(評価)	①実際の評価を行い、評価結果の解釈と問題点を列挙できる				
7	呼吸器疾患:作業療法介入について(目標設定)	①呼吸器疾患の治療方針・作業療法介入の具体的方法について理解できる				
8	呼吸器疾患:作業療法介入について(治療)	①COPDの症例について評価項目と目的を列挙し、評価結果から問題点を説明できる②ADLへの影響(障害像)を理解し、症例について作業療法の目標設定を説明できる				
9	呼吸器疾患:作業療法介入について(治療)	①COPDの症例について、治療計画を立案し説明できる				
10	呼吸器疾患:作業療法介入について(治療)	①演習を通して、吸引に必要な解剖・生理、吸引方法を理解できる ②各種治療について説明できる。				
11	腫瘍について 悪性新生物とは何か 治療と予後	①腫瘍(良性と悪性)について理解できる				
12	肺癌:作業療法介入について(肺癌の病態、治療、症状、評価、目標、治療)	①肺癌の病期、治療、手術療法後の障害像について理解できる②肺癌に対する作業療法介入を知り、評価・目標・治療の実際を理解できる				
13	乳癌:作業療法介入について(乳癌の病態、治療、症状、評価、目標、治療)	①乳癌の病期、治療、手術療法後の障害像について理解できる②乳癌に対する作業療法介入を知り、評価・目標・治療の実際を理解できる				
14	乳癌:作業療法介入について(評価、目標、治療)	①乳癌に対する作業療法介入を知り、評価・目標・治療の実際を理解できる				
15	呼吸器疾患・乳がんまとめ	①各疾患の終末期の評価目的と項目を列挙し説明できる。②終末期の目標設定と作業療法治療・援助内容について理解できる				
教科書	書籍名	著者	出版社	発行年		
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 病気が見える Vol.4 呼吸器 第3版	菅原洋子 長崎重信 監修・編集 医学情報科学研究所	協同医書出版社 MEDICAL VIEW MEDIC MEDIA	2016 2015 2018		
参考図書等	入門運動生理学 第4版	勝田茂 編集	杏林書院	2015		
授業方法	講義・演習。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う。			
履修上の注意						



講義科目		精神障害の作業療法学 I				
担当講師	太田 研吾 二階堂 晴江			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	精神障害領域病院実務経験	単位数	2
<b>教育目標</b> 認知症高齢者を含む精神医療における現状、利用できる制度及び社会資源を理解する。また、精神疾患の対象理解とリハビリテーションの概念を踏まえ、作業療法理論と構造、技術及び作業療法評価の基礎を理解する。						
<b>講義計画(講義内容を含む)</b>						
1	精神科医療の作業療法	①精神科作業療法対象疾患 ②精神科作業療法とは何か理解する	16	統合失調症の作業療法	①就労支援の種類と適応がわかる ②クライシスプランについて理解する	
2	日本と世界の精神障害の歴史	①精神障害の歴史を知る	17	統合失調症の作業療法	①事例検討(急性期～回復前期)	
3	精神医療の現状	①精神障害者の現状 ②病院のシステムがわかる	18	統合失調症の作業療法	①事例検討(社会資源利用・就労支援)を理解する	
4	治療過程と治療構造、作業活動	①作業療法の流れ ②作業療法の導入のポイント ③治療構造がわかる	19	認知症の作業療法	①生理的老化とは何かを理解する	
5	治療過程と治療構造、作業活動	①個人・集団の治療因子、治療構造の仕組みを知る	20	認知症の作業療法	①健康寿命とは何か(予防と対策)を理解する	
6	治療過程と治療構造、作業活動	①個人・集団の治療因子、治療構造の仕組みを知る	21	認知症の作業療法	①生理的老化と認知症の違いを理解する	
7	回復段階に応じた作業療法	①回復段階の流れを理解する	22	認知症の作業療法	①認知症のタイプ・症状 認知症に合併する身体症状を理解する	
8	統合失調症の作業療法	①急性期:疾患理解・生活障害 ②評価(インタビュー面接・情報収集・観察・検査)がわかる	23	認知症の作業療法	①認知症のタイプ・症状 認知症に合併する身体症状を理解する	
9	統合失調症の作業療法	①急性期:陽性症状の評価を理解する ②陽性症状と生活障害を理解する ③薬物療法	24	認知症の作業療法	①認知症の各種評価スケール ②作業療法の評価を理解する	
10	統合失調症の作業療法	①陰性症状の評価を理解する ②陰性症状と生活障害を理解する	25	認知症の作業療法	①認知症者のケアの原則 ②薬物療法・非薬物療法について理解する	
11	統合失調症の作業療法	①認知機能障害の評価を理解する ②認知機能障害と生活障害を理解する	26	認知症の作業療法	①認知症者への作業療法の目標 各時期と作業療法がわかる	
12	統合失調症の作業療法	①急性期 ②作業療法の目的・役割を理解する	27	認知症の作業療法	①作業療法の治療的態度と治療手段・タイプ別認知症者への対応がわかる	
13	統合失調症の作業療法	①回復期前期:疾患理解 ②評価:情報収集・観察・検査を理解する	28	認知症の作業療法	①代表的事例への作業療法の目標と対応を理解する	
14	統合失調症の作業療法	①回復期後期:疾患理解 ②評価:面接・情報収集・観察・検査・アセスメント)を理解する	29	認知症の作業療法	①認知症者の社会資源と地域支援がわかる	
15	統合失調症の作業療法	①退院後利用できる社会資源 ②地域生活をサポートする制度を理解する	30	認知症の作業療法	まとめ	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト6 第2版精神障害作業療法学 精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版 認知症の作業療法 第2版 精神障害と作業療法 第3版		長崎重信 朝田隆、中島直、堀田英樹 小川敬之 竹田徳則 編 山根寛		三輪書店 中央法規 医歯薬出版 MEDICAL VIEW	2012年 2010年
参考図書等						
授業方法	講義及び演習		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	講義の際に説明します。 講義中はしっかりとした姿勢で臨み、予習・復習を行うようにしてください。					



講義科目		精神障害の作業療法学Ⅱ				
担当講師		太田 研吾			授業時間数	60
開講年次	昼間コース	作業療学科 2年後期	実務経験	精神障害領域病院実務経験	単位数	2
教育目標		精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療的方法について 理解する。認知症及び発達障害を含む。				
講義計画(講義内容を含む)						
1	気分障害の作業療法	①疾患理解(心身機能、活動制限、参加制約)、回復段階と生活障害を理解する	16	パーソナリティ障害の作業療法	①境界性パーソナリティ障害疾患理解、生活障害がわかる	
2	気分障害の作業療法	①評価(インテーク面接・情報収集・観察・検査SDS・H-RSDなど)を理解する	17	パーソナリティ障害の作業療法	①境界性パーソナリティ障害の作業療法介入を理解する	
3	気分障害の作業療法	①評価(インテーク面接・情報収集・観察・検査SDS・H-RSDなど)を理解する	18	パーソナリティ障害の作業療法	①境界性パーソナリティ障害の作業療法介入がわかる	
4	気分障害の作業療法	①治療学 薬物療法・学習理論・認知行動療法・電気ショックなどを理解する	19	依存症の作業療法	①疾患理解、生活障害がわかる	
5	気分障害の作業療法	①急性期 作業療法の目的・役割を理解する	20	依存症の作業療法	①作業療法評価を理解する	
6	気分障害の作業療法	①回復期前期 作業療法の目的・役割を理解する	21	依存症の作業療法	①導入期と回復期 作業療法の目的・対応・治療を理解する	
7	気分障害の作業療法	①回復期後期 作業療法の目的・役割を理解する	22	児童期精神障害	児童期の精神障害と作業療法を理解する	
8	気分障害の作業療法	①回復期後期 作業療法の目的・役割 退院支援を理解する	23	広汎性発達障害・ADHD・知的障害・特異的発達障害	自閉症スペクトラムの分類を理解する	
9	神経症圏の作業療法	①疾患理解(心身機能、活動制限、参加制約)がわかる	24	アスペルガー症候群	①疾患の理解と生活障害を理解する	
10	神経症圏の作業療法	①分類(全般性不安障害、パニック障害、PTSD、恐怖症、強迫性障害、解離性障害)を理解する	25	アスペルガー症候群	①評価と介入方法②作業療法の導入③対応の基本がわかる	
11	神経症圏の作業療法	①神経症圏の作業療法の評価がわかる	26	ADHD	①疾患の理解と生活障害 それぞれの評価と介入方法がわかる	
12	神経症圏の作業療法	①作業療法の目的・対応・治療を理解する	27	特異的発達障害 知的障害	①LD・知的障害の障害特性と生活障害・ 評価と介入方法がわかる	
13	摂食障害の作業療法	①疾患理解(心身機能、活動制限、参加制約) 拒食症・過食症を理解する	28	広汎性発達障害・ADHD・知的障害・特異的発達障害	①抄読レポート発表・検討	
14	摂食障害の作業療法	①基本的治療方法 ②作業療法の目的・対応・治療を理解する	29	てんかんの作業療法	①発作・疾患特徴を理解する	
15	パーソナリティ障害の作業療法	①パーソナリティ障害の分類(境界型・妄想性・シゾイド・反社会性など)がわかる	30	てんかんの作業療法	①評価・作業療法の目的・方法を理解する ②総合支援法による支援を理解する	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
	精神疾患の理解と精神科作業療法		朝田隆、中島直、堀田英樹		中央法規	
参考図書等	作業療法学ゴールドマスターテキスト6 精神障害と作業療法		長崎重信 山根 寛		MEDICAL VIEW 三輪書店	
	授業方法	座学での講義及び演習。	成績評価方法	授業への取り組み方と定期試験結果を総合的に判断する。		
履修上の注意	講義の際に説明します。 講義中はしっかりとした姿勢で臨み、予習・復習を行うようにしてください。					

講義科目		高次脳機能障害の作業療法学				
担当講師	松崎 正晃			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標	①高次脳機能障害の神経心理学的評価方法を習得し、生活障害の特徴を理解する ②外傷性脳損傷を含み高次脳機能障害者の全体像を把握し、作業療法介入の方法を理解する					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	高次脳機能障害総論	①高次脳機能障害とは何かを説明できる ②人間の高次脳機能における脳機能局在とネットワークの概要を述べることができる ③脳画像診断のポイントを述べることができる				
2	高次脳機能障害の分類と作業療法評価及び介入の視点	①高次脳機能障害分類の体系を述べることができる ②高次脳機能障害に作業療法評価の原則を説明できる ③高次脳機能障害の作業療法介入の原理を説明できる				
3	失語症	①失語症の分類と言語ネットワークの関連を述べるができる ②各失語症の症状と病巣を説明できる ③失語症への評価介入の概要を説明できる ④失語症の評価の一部を実施できる				
4	失行、行為、行動の障害	①失行の定義と分類を述べることができる ②観念運動失行に対する作業療法介入のポイントを述べることができる ③失行関連症状と行為・行動の抑制障害とその要因を述べることができる ④失行の評価の一部を実施できる				
5	失認と関連症候	①感覚モダリティと失認の関係を述べることができる ②視覚失認の症状及び病巣を説明できる ③相貌失認の症状及び病巣を説明できる ④失認の評価の一部を実施できる				
6	半側空間無視①病態と責任病巣	①半側空間無視の定義と症状を説明できる ②半側空間無視に合併する様々な症状を説明できる ③方向性注意のネットワークと発現メカニズムの責任病巣を説明できる				
7	半側空間無視②評価と治療	①半側空間無視の評価の実際を理解できる ②治療介入の方法についての原理原則を説明できる ③半側空間無視の治療に対するエビデンスを述べることができる ④半側空間無視の評価の一部を実施できる				
8	外界と身体の処理に関わる空間性障害	①プッシャー症候群の病型及び病巣を述べるができる ②パリント症候群の症状及び責任病巣を述べることができる ③構成障害の評価と発現メカニズムを述べることができる				
9	注意障害	①注意とは何か、その諸側面を説明できる ②注意障害の評価方法を説明できる ③注意のネットワーク及びワーキングメモリーの機能を述べることができる				
10	記憶障害	①記憶障害の分類と症状を述べることができる ②パベッツ回路領域の局在性損傷と記憶障害について述べることができる ③記憶障害の評価及び作業療法介入を説明することができる				
11	遂行機能障害	①遂行機能障害とは何かを（認知ピラミッド）述べることができる ②遂行機能障害と障害部位の関連を理解する ③遂行機能障害の評価を説明できる ④遂行機能障害の評価の一部を実施できる				
12	外傷性脳損傷による高次脳機能障害①病態	①外傷性脳損傷と高次脳機能障害について述べるができる ②びまん性軸索損傷の画像診断を述べることができる ③急性期から回復期までの介入ポイントを述べることができる				
13	外傷性脳損傷による高次脳機能障害②障害像と評価	外傷性脳損傷患者の事例を通じて、症状と評価・介入について説明できる				
14	症例による評価方法の違いと解釈方法	各種検査方法と評価の手順を経験し、結果の解釈を実施できる（BIT、BADs、コース立方体、CAT）				
15	症例による評価方法の違いと解釈方法	各種検査方法と評価の手順を経験し、結果の解釈を実施できる（BIT、BADs、コース立方体、CAT）				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	高次脳機能障害学 第2版 作業療法学全書 改訂第3版 高次脳機能障害		石合純夫 澁 雅子 編集	医歯薬出版 協同医書出版社	2012 2011	
参考図書等	高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版		原寛美 監修	医歯薬出版	2015	
	病気が見えるVol.7 脳・神経 第2版		医学情報科学研究所	メディックメディア	2017	
	ゴールドマスター改訂第2版 高次脳機能障害作業療法学		長崎重信 監修	MEDICAL VIEW	2016	
授業方法	講義を中心に実施。障害イメージを高めるため必要に応じてDVD等視聴覚教材を使用する		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	様々な障害を学習するため、復習を行い各障害の症状等を整理して覚える また事前に書籍付録のDVDやインターネットなどで動画を閲覧し、高次脳機能障害のイメージを高めるよう心がけて下さい					

講義科目		作業療法学技術演習 I				
担当講師	堀川 和馬 沖 雅人			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	身体障害領域病院実務経験	単位数	1
教育目標	生活行為向上マネジメントの概念をもとに、提示された症例の全体像を把握し、現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する					
No.	講義計画	行動目標 ( 学 習 目 標 )				
1	総論	①技術演習の進め方や調べ学習の意味を理解できる ②大腿骨頸部骨折の基礎知識を理解することができる				
2	大腿骨頸部骨折の症例提示	①大腿骨頸部骨折の調べ学習の共有化を行える ②症例提示を通し、必要な知識を理解できる				
3	情報収集(問診)	①症例との問診を通し、統合1の使用方法を理解し、統合1を作成できる ②症例の主訴とデマンドを把握することができる				
4	評価項目列挙と臨床推論①	①リハビリテーション基礎評価学を用いて、評価項目の列挙と優先順位の理由を説明できる ②統合2と3の使用方法を理解できる				
5	評価項目列挙と臨床推論②	①統合2と統合3の評価項目の理由を説明できる ②統合3の結果と解釈を作成できる				
6	評価結果からの仮説と証明①	①評価結果を記録し、仮説を証明するための考察を加えることができる				
7	評価結果からの仮説と証明②	①評価結果を記録し、仮説を証明するための考察を加えることができる				
8	評価結果からの仮説と証明③	①評価結果を記録し、仮説を証明するための考察を加えることができる				
9	評価結果からの仮説と証明④	①評価結果を記録し、仮説を証明するための考察を加えることができる				
10	評価結果からの仮説と証明⑤	①評価結果を記録し、仮説を証明するための考察を加えることができる				
11	現状能力と生活行為を妨げている要因の整理①	①情報収集、評価結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理ができる ②解決すべき課題について優先順位をつけることができる				
12	現状能力と生活行為を妨げている要因の整理②	①情報収集、評価結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理ができる ②解決すべき課題について優先順位をつけることができる				
13	ゴールおよびプログラム立案①	①目標設定、プログラム立案を設定できる ②症例の全体像を把握し、作業療法の思考過程を説明できる				
14	ゴールおよびプログラム立案②	①目標設定、プログラム立案を設定できる ②症例の全体像を把握し、作業療法の思考過程を説明できる				
15	ゴールおよびプログラム修正	①目標設定、プログラムを修正することができる ②記載漏れなどがなく、レポートを提出できる				
教科書	書 籍 名		著 者	出 版 社	発 行 年	
	随時使用書籍を紹介					
参考図書等	随時使用書籍を紹介					
授業方法	グループ学習で作業療法思考過程を学び、実習で使用出来る知識として整理を行う 実習で使用する各種書式の書き方・使い方について体験する		成績評価方法	レポートの提出状況、学習に取り組む姿勢等を総合的に判断し評価する		
履修上の注意	作業療法を実施する上で必要な評価について、その手段、技術について実技や調べ学習を行い、身につけるよう努力すること 疾患の理解を深め、作業療法に活かせるよう積極的に調べ学習を行い、知識の整理を行うこと また、各種の記録物作成を通じて、対象者の情報を整理し、評価項目の列挙・計画から治療計画立案までの一連の作業療法思考過程が理解できるよう取り組むこと					

講義科目		作業療法学技術演習Ⅱ					
担当講師	桑原 健志 近藤 昭彦 / 二階堂 晴江 太田 研吾			授業時間数	60		
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	身体障害領域病院実務経験/精神障害領域病院実務経験	単位数	2	
教育目標	生活行為向上マネジメントの概念をもとに、提示された症例の全体像を把握し、現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する						
No.	講義	計画	行動	目標	(学習目標)		
1	コースガイド 学習のすすめ方	技術演習の進め方	16	統合失調症の症例提示	症例の理解(調べ学習と共有化)		
2	脳卒中(片麻痺)の症例提示	症例の理解(調べ学習と共有化)	17	事前学習と情報収集	症例の背景と全体像の把握を目的に情報収集を実施する 統合記録1の作成		
3	事前学習と情報収集	症例の背景と全体像の把握を目的に情報収集を実施する 統合記録1の作成	18	画像資料による行動の観察	症例の動作観察から、生活行為を妨げている要因について仮説を立てる 統合記録2の作成		
4	画像資料による動作確認	症例の動作観察から、生活行為を妨げている要因について仮説を立てる 統合記録2の作成	19	評価項目列挙	ICFの各項目別に評価項目を列挙する		
5	評価項目列挙	ICFの各項目別に評価項目を列挙する	20	評価項目列挙	ICFの各項目別に評価項目を列挙する		
6	情報収集と観察からの臨床推論	情報収集結果と症例情報より症例の生活行為を妨げている要因についての仮説を挙げる 統合記録2と統合3の作成	21	情報収集と観察からの臨床推論	情報収集結果と症例情報より症例の生活行為を妨げている仮の要因を挙げる 統合記録2と統合3の作成		
7	評価・実技演習	必要な評価について具体的に手順を考え、実技・画像から実測できる	22	情報収集と観察からの臨床推論	情報収集結果と症例情報より症例の生活行為を妨げている仮の要因を挙げる 統合記録2と統合3の作成		
8	評価結果からの仮説と証明	統合記録3の結果と考察部分の作成	23	評価・実技演習	必要な評価について具体的に手順を考え、実技・画像から実測できる		
9	評価・実技演習	さらに必要な評価について具体的に手順を考え、実技・画像から実測できる	24	評価・実技演習	必要な評価について具体的に手順を考え、実技・画像から実測できる		
10	評価結果からの仮説と証明	統合記録3の結果と考察部分の作成	25	情報の整理	統合記録3の結果と考察部分の作成		
11	問題点・利点の整理	収集した情報や検査結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理を行う 統合記録4と統合記録5の作成	26	全体像のまとめ(ICFおよび相関図)	収集した情報や検査結果より症例の全体像を相関図などでまとめる 統合記録4と統合記録5の作成		
12	問題点・利点の整理	収集した情報や検査結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理を行う 統合記録4と統合記録5の作成	27	ゴール設定のための要因の整理	収集した情報や検査結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理を行う 統合記録4と統合記録5の作成		
13	ゴールおよびプログラム立案	症例の状況に合わせたゴール及びプログラムを立案し、統合記録5を作成する	28	プログラム立案と具体的治療手段の検討	症例の状況に合わせたゴール及びプログラムを立案し、統合記録5を作成する		
14	ゴールおよびプログラム立案	症例の状況に合わせたゴール及びプログラムを立案し、統合記録5を作成する	29	まとめ(レポート提出)	統合記録1～5に整合性をもって記録ができる		
15	まとめ(レポート提出)	統合記録1～5に整合性をもって記録ができる	30	まとめ 全体へのフィードバック	全体のまとめとフィードバック		
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年	
	随時使用書籍を紹介						
参考図書等	随時使用書籍を紹介						
授業方法	座学による講義、グループワーク、教員担当の個別指導。		成績評価方法	レポートの提出状況、学習に取り組む姿勢等を総合的に判断し評価する。			
履修上の注意	作業療法を実施する上で必要な評価について、その手段、技術について実技や調べ学習を行い、身につけるよう努力すること。各疾患の理解を深め、作業療法に活かせるよう積極的に調べ学習を行い、知識の整理を行うこと。また、各種の記録物作成を通じて、対象者の情報を整理し、評価項目の列挙・計画から治療計画立案までの一連の作業療法思考過程が理解できるよう取り組むこと。						

講義科目		生活環境学					
担当講師		桑原 健志			授業時間数	30	
開講年次		昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	高齢者施設・在宅領域実務経験	単位数	2
教育目標		障害者、高齢者の地域生活支援方法として、社会制度の活用、福祉用具の適応、住環境の改造等整備が行える知識を身につける					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)					
1	生活環境学について・日本家屋における特徴、バリアフリー及び関連諸制度について	リハビリテーションにおける生活を説明できる バリアフリーデザインとユニバーサルデザインについて説明できる					
2	住環境整備について (玄関・廊下・トイレ)	住環境整の意義、流れについて説明できる。具体的な住環境整備対策を説明できる					
3	住環境整備について (洗面所・浴室・寝室・台所)	住環境整の意義、流れについて説明できる。具体的な住環境整備対策を説明できる					
4	福祉用具について (移動・移乗用具など)	福祉用具の定義と概念について説明できる。種類について具体的に説明できる 移動・移乗用具の活用例を挙げ、その適合性を検討することができる					
5	福祉用具について (起居・入浴用具など)	起居・入浴用具の種類について具体的に説明できる 起居・入浴用具の活用例を挙げ、その適合性を検討することができる					
6	福祉用具について (排泄・コミュニケーション用具、自助具など)	排泄・コミュニケーション用具、自助具の種類について具体的に説明できる 排泄・コミュニケーション用具、自助具の活用例を挙げ、その適合性を検討することができる					
7	疾患別住宅改修ポイント (脳卒中①)	脳卒中患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる					
8	疾患別住宅改修ポイント (脳卒中②)	脳卒中患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる					
9	疾患別住宅改修ポイント (脳卒中③)	脳卒中患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる					
10	疾患別住宅改修ポイント (頸髄・胸腰髄損傷)	脊髄損傷患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる					
11	疾患別住宅改修ポイント (リウマチ)	リウマチ患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる					
12	福祉用具演習① (グループワーク)	実際に福祉用具を使用し、各用具の5W2Hを説明できる					
13	福祉用具演習② (グループワーク)	実際に福祉用具を使用し、各用具の5W2Hを説明できる					
14	事例検討	事例検討を行い、グループで事例に必要な住宅改修や福祉用具を検討する					
15	事例検討	事例検討を行い、グループで事例に必要な住宅改修や福祉用具を検討する					
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年		
	理学療法学テキストX 生活環境論		千住秀明	神陵文庫	2006		
参考図書等	作業療法学全書 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備		日本作業療法士協会監修	協同医書出版社	2009		
授業方法	講義・演習・グループワーク		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	予習復習を欠かさない事、特に復習は重要となります 主体的に講義に参加して下さい						

講義科目		地域作業療法学演習				
担当講師	太田 研吾				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	精神障害領域訪問支援実務経験	単位数	2
教育目標	地域作業療法の理念、目的、概要について学び、在宅作業療法、就学支援、就労支援等の地域で暮らすための作業療法支援の在り方を理解する					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	地域リハビリテーションの概念	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる ②地域リハビリテーションの範囲(地域の捉え方)を説明できる ③地域包括ケアの概念を知る				
2	地域作業療法の概念	①3つの保健医療圏を理解する ②地域作業療法の役割と連携の重要性を理解する ③生活行為向上マネジメントの重要性を理解する				
3	社会保障制度について	①社会保障制度の意味を理解する ②社会保障制度の変遷を理解する				
4	地域の社会資源について	①フォーマル・インフォーマルな社会資源の意味を理解する ②サービス提供主体による社会資源の分類を知る ③社会資源に関する諸制度を知る(医療・介護・障害)				
5	地域作業療法の関連法規① (医療保険制度)	①社会保険制度の意味を理解する ②医療保険制度と保険診療制度を理解する ③疾患別リハビリテーション制度を知る				
6	地域作業療法の関連法規② (介護保険制度)	①介護保険制度の目的を理解する ②介護サービスの流れを理解する ③介護サービスの種類の概要を理解する				
7	地域作業療法の関連法規③ (障害者総合支援法)	①障害者総合支援法の目的を理解する ②障害者総合支援法のサービスを理解する ③サービス利用の流れを理解する				
8	地域包括ケアの実際①	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる ②地域包括ケアシステムと作業療法の関連を知る				
9	地域包括ケアの実際②	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる ②地域包括ケアシステムと作業療法の関連を知る				
10	障害者支援の実際①	①障害者支援における作業療法士の役割とその内容を理解する ②障害者の地域生活支援を理解する				
11	障害者支援の実際②	①障害者支援における作業療法士の役割とその内容を理解する ②障害者の地域生活支援を理解する				
12	障害者支援の実際③	①障害者支援における作業療法士の役割とその内容を理解する ②障害者の地域生活支援を理解する				
13	介護予防の実際①	①認知症予防、転倒予防の実際を知る ②介護予防における実践と作業療法士の役割を知る				
14	介護予防の実際②	①認知症予防、転倒予防の実際を知る ②介護予防における実践と作業療法士の役割を知る				
15	地域で働く作業療法士に必要な資質(まとめ)	①他職種連携の重要性を知る②コミュニケーション能力の重要性を知る③制度を知ることの重要性を知る④個々のニーズを理解する柔軟性と行動力の重要性を知る				
教科書	書籍名	著者	出版社	発行年		
	地域リハビリテーション学 第2版	重森健太 編	羊土社	2019		
参考図書等	随時提示を行う					
授業方法	講義・演習・グループワーク	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	主体的に授業へ参加すること、積極的な学習を望みます					